



# 晴天の心

立教189年4号  
大阪府富田林市寿町4-9-10  
URL:www.tomiishi.net  
TEL:0721-23-3466 090-5243-4669



月次祭 4月17日(金) 午前11時～  
婦人会例会 4月9日(木) 午前10時～



### 「おやさと桜写真撮影会」

3月20日(祝) おぢばで早咲きの桜撮影会を実施しました。11名の方が正午に天理駅に集まりました。皆さん天理は初めてもしくは来ていても山辺の道ハイキング目的のためおぢばを参拝したことがないということで、初おぢばがえり。

天理本通り商店街を写真を撮影しながら歩くこと約1時間！私には見慣れたものでも、初めて来られた方にとっては珍しい。荒物屋の店先や神具店の店先などなど・・・昭和の香りのする風景が一杯。お茶所で昼食後、神殿へ北礼拝場で参拝。一通りの説明を行って親神様を参拝し、回廊を回って教祖殿の手前でまるで図ったかのようなミュージックサイレン。その説明をして教祖殿参拝。そして祖霊殿参拝。

そしてお待ちかねの桜並木へ。東筋の桜は見事に見頃。ここで記念写真を1枚。その後、神殿東側に広がる桜を回っていろいろ楽しんでいただきました。この日私が歩いた歩数は約15900歩。今日もまだ痛いです～。さすがに皆さんベテランのカメラマン、出会う人にいろいろ話しかけてモデルになってもらったりひのきしんについて聞いたりそれぞれでおぢばを堪能されたようでした。



参加された方の多くは、4月5日に再度おやさとの桜を撮影に来られるとのこと。

今日の  
おやのことば



「皆一名一人の心の理を以て生れて居る」  
さあ／＼人間というは神の子供という。  
親子兄弟同んなじ中といえども、  
皆一名一人の心の理を以て生れて居る。

おさしづ 明治23年8月9日

幼いころから考えることが好きな子供でした。

小学生のときの写真を見ると、いつも口を開けてぼんやりした顔をしています。「宇宙の果てはどこにあるのか？」「生まれる前の自分はどこにいたのか？」「なぜダンゴムシは丸くなるのか？」などと、いつもとりとめのないことばかり考えていました。

ある時期から、本の中に答えがあると思うようになり、それこそむさぼるように本（特に事典類）を読みました。でも思春期になって、すべての答えが本の中にあるわけではないということを知って、急に気力がなくなり、またぼんやりと過ごす日が続きます。

その後は、本の中に答えが見つかる問いもある一方で、自分で答えを求めなくてはならない問いもあることを知り、あらためて学ぶことを始めました。

「親子兄弟同んなじ中といえども、  
皆一名一人の心の理を以て生れて居る」

いまだに考え続けている問いの一つは、「現在の自分は、なぜ現在の自分としてここにいるのか？」というものです。普段は忘れていますが、何か困難な状況に直面すると、すぐに心に浮かんできます。

「なぜ自分が……」と考え込む前に、親神様の思召を感じて心を治めるべきなのですが、なかなか素直に受けとめられないこともあります。だからこそ、何度も「おさしづ」を拝読し、真実の答えに耳を傾ける必要があるのでしょう。（岡）

．．．

阪倉佐助伴房吉二十三才身上願（兵庫）

【本指図】

さあ／＼身上尋ねる処、さあ一時なるまい。長らく／＼の事情、これまで一時どうすれど理が無い。身の迫りた処、一時の理ではない。まあ大層々々。一寸踏ん張る。

何がどうあちがどうと、必ず思わずよう、一時理によって一時踏ん張る。

なか／＼大層という。

押して願

さあ／＼人間というは神の子供という。

親子兄弟同んなじ中といえども、皆一名一人の心の理を以て生れて居る。

何ぼどうしようこうしようと言うた処が、心の理がある。何ぼ親子兄弟でも。

．．．



娘が、友達のおまもりを戴く時に立ち会ったときの光景をこのおさしづが伝えているように思いました。おぢばで頂くおまもりは、有名な神社仏閣などの事務所で売られているお守りとは違って、誰でも買えるものではなく教会を通して順序を踏んでお話を聞いた上でおぢば帰りをして教祖殿でさらにお話を取り次いでもらっていただくのですが、そこに至るまでの頂く人のころにあわせてチューニングされるように感じたと言っていました。

ひとりひとりのころの理は違っているのだということな

のでしょう。

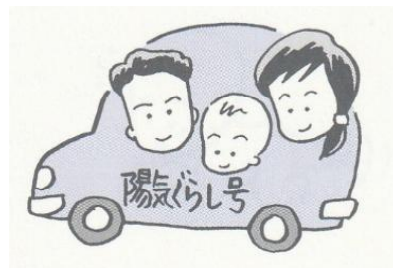
神様を信じ敬うころも人それぞれに違って来る。そのころのありようにあわせて、様々な身状事情を見せて人生と成るのだと思います。乗り越えられないようなことは決してしないと思います。まずは落ち着いてころを切り替えて勇んで参りましょう。

## 陽気に行こう (Keep on the sunny side of life)

喜びの朝もある 涙の夜もある  
長い人生なら さあ陽気に行こう  
陽気に行こう どんなときでも 陽気に行こう  
苦しいことは わかっているのさ さあ陽気に行こう

嵐吹き荒れても 望み奪われても  
悲しみは通り過ぎゆく 陽も輝くだろう  
陽気に行こう どんなときでも 陽気に行こう  
苦しいことは わかっているのさ さあ陽気に行こう

恋はうれしいもの 別れはつらいもの  
人生は長いもの 君は幸せもの  
陽気に行こう どんなときでも 陽気に行こう  
苦しいことは わかっているのさ さあ陽気に行こう  
さあ陽気に行こう さあ陽気に行こう



「かしのもの・かりのもの」を心に一手一つにひのきしん

4月29日 水・祝

# 立教189年 全教一斉ひのきしんデー

会場は「教区・支部情報ねっと」でご確認いただけます

## 陽気ぐらし講座 令和8年5月2日(土)

10時～ 大典分教会

13時30分～ 錦分教会

※参加費 無料!!

どなたでも参加できます。

日頃の悩みも消えてすっきり晴れ晴れ～♪

元気になれること間違いなし! どうぞ誘い合ってご参加下さい。



教会の庭にも春が

昨年秋に付属建物の屋根と外壁の工事を行うことから、建物の周囲にあったものを綺麗にかたづけたことはご存じだと思います。植木の剪定や草刈りなども行って庭も綺麗になりました。また、この冬の間草刈り機を使いにくいエアコンの室外機や井戸の周りなどは、草が生えにくいように簡易的な舗装を行いました。春になって気温が上がると自然の力ですね、草が伸び始めました。冬の間施工した場所でも、一寸した隙間から草が芽を出しています。そして、工事前くらいから姿を見せなかった外猫が、いつの頃からか戻ってきていました。伸び始めた草をかき分けるように歩き、近づいてきて甘えた声で泣いてきます。声をかけると返事をするように泣きます。生きていくために媚びる。でも服従はしない。外猫らしい生き様です。世代が変わってもしぶとく生きています。

# 誕生祭 教祖

道の子みんなでお祝いしましょう

## よろこびの大合唱

立教189年4月18日(土)

開始:祭典終了直後/場所:本部中庭



[歌詞・音源・動画はコチラ]

天理教婦人会・青年会・少年会

4月の月次祭は17日です  
4月18日はおやさまの誕生祭が教会本部で行われます。以前は、おやさま誕生祭の18日から本部月次祭の26日までを慶祝期間として様々な行事が行われていたことから、この期間の各教会の月次祭は日程が変更になっていました。当教会も17日となっています。慶祝期間がなくなった際に、通常の日程に戻された教会もありますが、前会長の病氣療養中だったことから、当教会は変更届けを出さずに17日のままとっています。

### 教祖誕生祭

寛政10年(1798年)4月18日にお生まれになった、教祖のご誕生をお祝いして勤められます。

祭典 2026年4月18日(土) 10:00

### 教祖御誕生讃歌

太田美津雄  
小松崎吉正  
作曲

- 一 喜びいっぱい みちあふれ  
今日はおやさま お誕生日  
道の子たくさん 集まって  
心をこめて 祝います  
おめでとーございませう  
おやさま おやさま
- 二 春の光を 身にうけて  
今日はおやさま お誕生日  
をやのまもりに いだかれて  
感謝の心で 祝います  
おめでとーございませう  
おやさま おやさま
- 三 風さわやかに 晴れわた  
今日はおやさま お誕生日  
歌声高く 大空へ  
一手一つに 祝います  
おめでとーございませう  
おやさま おやさま

### 教祖御誕生祝歌

福原光江  
内田甚太郎  
作曲

- 一 空に五彩の雲たなびきし  
寛政十年 この月 この日  
あなかしこ  
我らが御教祖 生れ給う  
祝えよ たたえよ  
今日 このよき日
- 二 いまほる朝日の 光もうらら  
いませる やかたの いらかに映ゆる  
あなまし  
今日し御教祖 生れ給う  
祝えよ たたえよ  
輝く この日
- 三 だめの教えに いちれつ教く  
恵みの御旨 果てしはあらじ  
あなまし  
世界の御教祖 生れ給う  
祝えよ たたえよ  
はえある この日



よろこびの大合唱 教祖御誕生讃歌

どうぞ、春の陽気の中、ご参拝ください。また、動画サイトでよろこびの大合唱の様子をお楽しみください。



### 人がめどか

教祖は、入信後間もない梅谷四郎兵衛に、「やさしい心になりなされや。人を救けなされや。癖性分を取りなされや。」とお諭し下された。生来、四郎兵衛は気の短い方であった。

明治十六年、折から普請中の御休息所の壁塗りひのきしんをさせて頂いていたが、「大阪の食い詰め左官が、大和三界まで仕事に来て。」との陰口を聞いて、激しい憤りから、深夜、ひそかに荷物を取りまとめて、大阪へもどろうとした。足音をしのばせて、中南の門屋を出ようとした時、教祖の咳払いが聞こえた。

「あ、教祖が。」と思ったとたん足は止まり、腹立ちも消え去ってしまった。翌朝、お屋敷の人々と共に、御飯を頂戴しているところへ、教祖がお出ましになり、「四郎兵衛さん、人がめどか、神がめどか。神さんめどやで。」と、仰せ下された。めど：目標。信仰していると、理不尽なことに出くわすことがままある。このときこの言葉を思い出すことを心がける。一寸一息つく、「神が見ている気を静め」である。



よろこびの大合唱 教祖御誕生祝歌